

第72回囃高祭、いよいよフィナーレです。まずは、文化祭中央実行委員会の皆さん、生徒会執行部の皆さんに、厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。また、会場設営・撤収、受付、スリッパ、うちわ販売、警備など、スタッフとして祭りを支えてくれた多くの皆さん、そして朝早くから、夜遅くまで、サポートしてくださった先生方、ここにいるすべての皆さんに感謝いたします。

3年生の大劇。ホントによかった。全部の大劇を完全コンプリートできたことは、私の一生の宝物です。テーマも深かった。よくセリフが通っていました。歌や踊りもハイクオリティでした。練習の成果がよく出ていました。さすがは、3年生です。

2年生の小劇。細かいせりふ回し、テンポや掛け合い、見事でした。何より、笑いを取るのは、とても難しいけど、会場と一体となって、盛り上げてくれました。でも人を笑わせることを覚えると、癖になりますので、お気をつけください。

1年生のイベント、ティールーム、映像。実はこれが一番難しいと思います。急な企画変更もありましたね。会場設営も前日の午後だけと限られているなど、いろいろな制約の中で、よく実現してくれました。当日は、宣伝や、たくさんのお客さんへの接客も丁寧にしてくれて、とくに子どもたち、未来の囃高生が、楽しんでくれていたのが、何より、うれしかったです。

第三芸能では、有志の皆さんの踊り、演奏、漫才・コントなどで、どの会場よりも、一番熱く盛り上がっていました。

文化系クラブ、合気道部及び探究ラボの皆さん、日ごろの活動の成果をよく発揮し、とても分かりやすく、親しみやすい発表・展示をしてくださいました。

いつもいってますが、人・物・金・時間が潤沢にある時代は、とっくの昔に終わりました。これからの持続可能な社会の実現においては、これらの限られた資源の中で、どれだけのパフォーマンスを示すことができるかが重要です。行きかうお客さんの口から「すごいなあ」「おもしろかったなあ」「楽しかったなあ」との言葉を、聞くことができました。皆さんが、この囃高祭で、見事にそれを体現してくれた証拠です。でも「文化祭苦手やな、一人でコツコツやるのが好き。」という人もきっといると思います。そんな皆さんが輝ける 때가、絶対ありますので、その時に力を発揮してください。

最後に文化祭にちなんだ漫画のセリフを紹介します。神山（かみやま）高校の古典部、囃高では文芸部ですね、を舞台とした米澤穂信（よねざわ ほのぶ）さんのライトノベル「古典部シリーズ」に「氷菓」があります。アニメ化もされました。古典部では、文化祭の出し物として文集「氷菓」を販売することになり、売れ残り覚悟で三十部を発注したのですが、発注ミスで二百部も届いてしまいました。ヒロインの千反田える（ちたんだ える）さんは、「文集の販売を頑張ろう」と意気込むのですが、冷静な主人公 折木 奉太郎（おれき ほうたろう）くん「頑張るだけでなんとなかなるものなのか？」と言われたときのセリフ。

「頑張れば何とかなる保証は、ありませんが、頑張らなければ、何ともならない事は、保証できます！」

四條囃高校は、皆さんの頑張りで、今日もまた、新たな伝統を築くことができました。その伝統と誇りを胸に、さらに、一緒に進んでいきましょう。お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。